

長万部の

教育

コーナー



今、学校では

新年に期待を寄せて

静狩小学校



全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、学校では児童生徒の体調管理はもとより、冬場の換気や温度や湿度管理など、今まで以上に気を配って教育活動を進めています。

学習の進度は、夏休みや秋休み等を短縮したり、行事等の見直しを図ったりするなどしてきています。概ね順調に進んでいます。

クラブ活動も感染リスクの低減を図りながら、可能な範囲で行っています。先日、クラブ活動では、「焼き芋」づくり挑戦しました。秋に収穫した「さつまいも」を追熟のため保管し、食べ頃と天気を見計らいながら、外で炭火を使って焼きました。少し焦げたところもありましたが、自分たちで育て、収穫したこともあり、みんな「甘くて美味しい」と笑顔がはじけました。下校時は、家族へのお土産の「焼き芋」を大事そうに抱えて帰る姿が印象的でした。いよいよ新しい年になりますが、感染リスクを抑えながら、子どもたちの学びの充実を目指して取り組んでいきます。

廃材が大変身!

いずみ保育園

子どもたちが『はこせいさく』と呼ぶのは、空き箱・牛乳パック・ペーパー芯などを使った自由な工作。今年の年中長さんが大好きな遊びの一つです。イメージをどんどん膨らませ、個性あふれる作品に…。時には「どうすればいいのかな?」と立ち止まることで、考える力も育ちます。正解がないからこそ、いつも新しい発見を与えてくれる子ども達です。「先生、まだ見ちゃダメ」とワクワクさせてくれる姿に、夢がいっぱい詰まっ

ている廃材のありがたみを感じます。帰りの会では作品の紹介コーナーがあります。「ロボットを作りました」「ねずこの竹箱で作りました」時にはびっくり箱で皆の歓声をもらう場面もあります。年少さん達は誇らしげに発表するお兄さん・お姉さんの姿を尊敬の眼差しで見つめます。「お母さん、びっくりするかなあ」とお迎え時間を心待ちにする微笑ましい姿もあります。

今年だからできること・今年しかできないこと

長万部マリア幼稚園



グラフィティ

新園舎の建設にあたり、取り壊しになる前に、十一月二十二日の開園記念日お誕生

パーティーの日を機に園内の壁に『ありがとう』の気持ちを込めて『グラフィティ』を始めています。『らくがき』と言えば聞こえが悪いので、英語で表現してみました。普段壁にお絵描きなんてしてはいけないんだけど、今年は特別!と子どもたちとも約束をして、進めています。壁に描くってこんなに楽しくて、のびのびと描けるものなんだ!と実感。在園児のみならず、卒園児の小学生も記念に描いてくれています。そして、今年は園外の方々と交流がない中、保護者のお母さん先生に講師となっていたいただき、サイエンス教室を開きました。



サイエンス

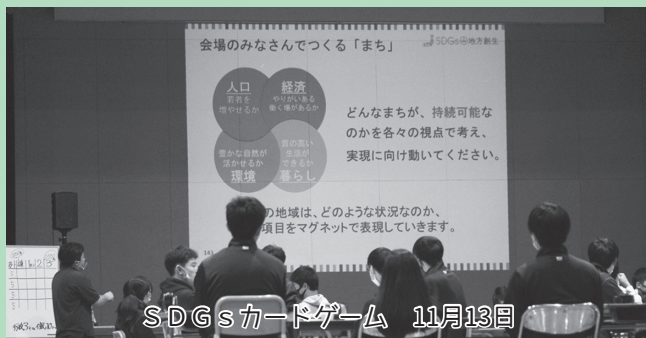
身近な「どうして?」「ふしぎだな」といった感じに欲しい。そして科学を身近に感じてくれたなら嬉しいです。今年は色々な気持ちの行きかう一年でした。どうか長万部町の皆さんの心が安らぎと希望に満たされた年を迎えられますように。



写真で見る 学校の様子

長万部高等学校

長万部小学校



SDGsカードゲーム 11月13日



1,2年生活科
2年生が1年生におもちゃの作り方を教えてくれました



吹奏楽部定期演奏会 11月15日



6年プログラミング
今年から必修化になったプログラミング教育
パソコンに命令を送って、画面を動かしています



小中高合同「ふるさと学」発表会 11月19日



校内授業研究
教職員で授業を参観し合い、授業改善に取り組んでいます

新型コロナウイルスの感染拡大は未だその猛威を振るい、学校現場では寒い中での換気、マスクの着用、密にならないこと、毎日の消毒など今までのない業務と生活スタイルに先生方も生徒も疲弊している毎日です。そんな中十一月十九日、開催を危ぶまれた小中高「ふるさと学」発表会ですが感染症対策を施しながら何とか開催することができました。私は商業の教員ですので商業科目「課題研究」の中で地域の課題についての探究や地元の名産を使った新商品の開発などに携わり、生徒がその探究内容を発表することを数多く体験してきました。しかしそれが本校のような普通科の学校で、しかも全国高校生マイプロジェクトアワードと連携した取組を行っていること、そして長万部町の小中高連携事業として定着しつつあることに驚かされました。この発表会、今年度はコロナ禍の影響もあり、高校だけの発表となりましたが、当日は小中学校を始め、地域の方々も参加していただくこととなったため、会場の体育館に収容する人数をいかに制限しソーシャルディスタ



可能性

長万部高等学校長

山田 仁 樹

ンスを維持するかが課題になりました。最終的に発表者の2年生だけを会場の体育館に入れ、1・3年生は別教室でNOIEによる視聴とし、評価者のうち札幌大谷大学の丸山先生と学生の方々もNOIEで参加していただきました。簡単にいったように思われますが、実際の舞台裏は事前の準備やリハーサルに大わらわ。特に総括の館教諭と進行にあたる3年生は前日夜遅くまでリハーサルと映像の確認などに追われ、当日もうまくいくかどうか非常に不安でした。当日は評価者の丸山先生や学生達は体育館のスクリーン一杯に映し出され、グリーンバックによる札幌の観光地を背景に評価をしていただくという粋な演出をしてくださいました。また発表に対し地域の方々からも積極的な質問をいただくなど趣向を凝らした発表会となりました。評価者の北海道教育大学函館校の齋藤准教授が「リアルとICTの融合だね。」とおっしゃっていました。今回の発表会が努力や苦勞の末、多くの可能性を秘めていたことをうれしく思います。